

地域医療の未来探る加西病院市民フォーラム開催

9月30日。全国で公立病院の医師不足が深刻な問題になっている中、規模縮小が続く市立加西病院の現状を探るフォーラムが加西市民会館で開かれ、市内外から約800人が参加しました。

「地域医療を取り巻く環境は予想以上に厳しい。市民一人ひとりが自分の問題として考えるきっかけに」「診療科がなくなってしまうから騒いでも意味がない。現状を伝えることで、病院を支えていこうという市民の機運が高まれば」

(加西病院市民フォーラム実行委員会)



市内の有識者でつくる「加西市経営改革委員会」が中心となって、実行委員会を結成。企画から当日の運営、舞台設営までを市民が主体となって進めてきました。

今年6月、産婦人科が休診し、ここ数年規模の縮小が目立つ同病院の現況を山邊裕院長から聞いた際、病院の集約化を進める国の方針などを知らされ、「このままでは地域医療は崩壊する」と危機感を覚え、今回フォーラムを開催する運びとなりました。

フォーラムは2部構成で、第1部は加西病院の山邊院長から「加西病院からの報告」と題する基調講演。加西市の医療の根幹部分、その中心となる病院の医療活動の現状と今後の展望について説明されました。

第2部は市長、院長、医業コンサルタント、市議会議長、加西市PTA会長を交えたパネルディスカッションで、患者と医療提供者との信頼、行政と市民の協力を得ながら、「地域の医療、市民のための病院」をみんなで今後も支えていく努力が必要という意見へ集約されていきました。

また、地域の病院を大切に思い、市民として、行政としてお互いに市民病院を支えていこうという市長の発言もありました。

医師不足による診療科の休診・閉鎖に対し、市は今後どのような対策を講じるのか、また市民に何を望むのか、このフォーラム以後の具体的な取り組みを示していくことが大切と考えています。

一日も早く市民の不安を解消し、今後も加西病院が地域の中核病院として、質の高い医療を安心して提供できるように取り組んで参ります。

10月は食生活改善月間です

日本人の野菜の摂取量は、成人全体の平均が266g、目標値の350gを大きく下回っています。野菜不足はビタミン、ミネラル、食物繊維など必要な栄養素が不足する他、たんぱく質や脂質、炭水化物に偏り、エネルギーが過剰となって、糖尿病、心臓病、がんなどの生活習慣病につながりやすくなります。この機会に、食生活の中でも野菜の摂取について自分の食生活を振り返り、より良い食生活を目指しましょう。

食事バランスガイド（望ましい食事のとり方や、おおよその量を分かりやすくイラストで示したもの。下図）によると、1日5皿以上の野菜を食べることで1日の必要量が満たされるとされています。（1皿70gとして70g×5皿＝350g）野菜を1日5皿摂るように心がけることで、カロリーは控えめで満足感を得られる充実した食生活になります。味噌汁、おひたし、炒め物、煮物、サラダ等いろいろな献立で、1食に2皿は野菜料理を食べるように意識してみましょ。



食事バランスガイド

※ 食事バランスガイドについて詳しくは厚生労働省ホームページをご覧ください。
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyou-syokuji.html>

国保健康課

出産育児一時金の見直しについて

10月1日より国民健康保険の出産育児一時金が30万円から35万円に引き上げられました。

対象：10月1日以降に出産等された国保被保険者の方

問合せ先：国保健康課国保医療係 ☎428721

播磨看護専門学校入学試験

《推薦入学試験》

募集人数：約10名(平成19年3月に本校指定の高等学校卒業見込みの方。)

《社会人入学試験》

募集人員：若干名(大学を卒業した者で、1年以上の社会人の経験があり、将来看護を職業として社会に貢献する意志を有する方。)

出願受付期間：11/1(水)～11/10(金)

郵送で受付期間内に必着

●持参不可

試験日時：11/27(月)

出願書類提出先及び問合せ先：

加東市家原812-1

播磨看護専門学校事務課 ☎(0795) 423961 9